



国際標準論理文章能力検定  
International Standard Competency  
Test of Logical Thinking

# Level 4-5

2013年度 第2回

## 問題用紙

けんてい

検定開始の合図があるまで問題を開いてはいけません。  
まず、下記の注意をよく読んでください。

けんていじょう

### ●検定上の注意●

1. 検定時間は60分です。
2. 検定開始前に答案用紙に受検番号・氏名・生年月日を必ず記入してください。
3. 検定が始まって、印刷が見えにくかったり、ページがおかしかったりしたら、手をあげてかんとくしゃ監督者に知らせてください。
4. 問題のあいているところは自由に利用してください。
5. 問題は、答案用紙と一いっしょ緒に回収します。

## 問題Ⅰ 次の問いに答えなさい。

第一問 次のア～カの中から、主語と述語じゆつごの関係がふくまれていないものを二つ選び、記号で答えなさい。

ア 大空を飛んでいくよ、ヒバリが。

イ 今日は勉強をがんばるぞ。

ウ 花のかおりがする。

エ 明日こそ晴れるだろう。

オ 学校で体育祭の練習があった。

カ 優秀ゆうしゆうな成績を取った。

第二問 例のように、問題文を図に当てはめたとき、

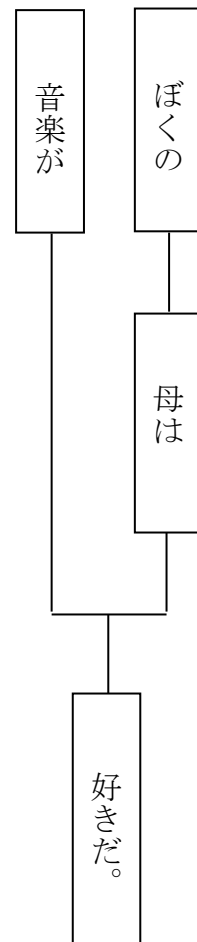
記号で答えなさい。

(2)

(4)

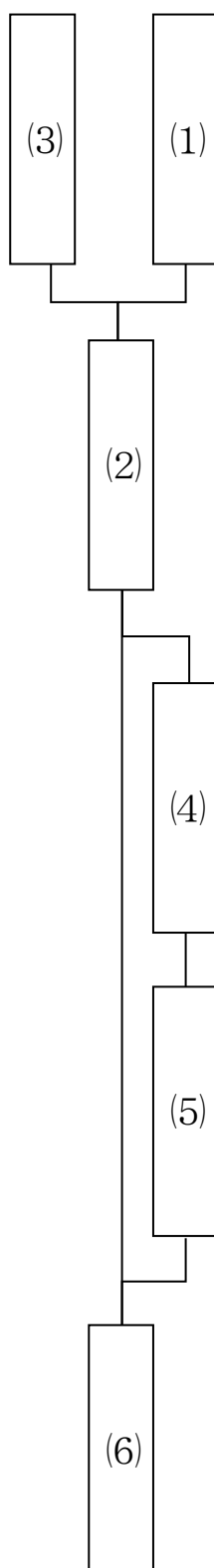
に当てはまる言葉を選び、ア～カの

【例】 ぼくの 母は 音楽が 好きだ。



【問題】

- ア 彼女の      イ 好きな      ウ バックは      エ 花がらの      オ ししゅうが      カ ついでいる。



第三問 次の( )にもつとも当てはまるものを、後のア～エの中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

- (1) ( ) 苦しくても、まけないぞ。      ア もし      イ さぞ      ウ たとえ      エ まるで
- (2) 算数なら、( )、かれの方ができる。      ア さぞ      イ もし      ウ まるで      エ むしろ
- (3) 今回の成績は( ) 夢のようだ。      ア まるで      イ きっと      ウ もし      エ まったく

**第四問** 次の文章の（ 1 ）～（ 4 ）に当てはまる言葉を、後のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

私は小さいころに母親から、言葉を大切にしないと言葉が復讐ふくしゅうしてくるよと言われたことがあります。

私たちは朝から夜寝るまで日本語を使っています。頭の中でものを考えるとき（ 1 ）、日本語を使って考えています。おそらく死ぬ（ 2 ）日本語を使い続けていることでしょう。では、私たちはその日本語を大切にしているのでしょうか。

日本語は、日本人のものの考え方、感じ方と深い関係があります。その日本語をいい加減かげんにつかうと、ものの考え方や感じ方までいい加減かげんなもの（ 3 ）なってしまうます。言葉に復讐ふくしゅうさ（ 4 ）るとは、そういうことなのでしよう。

ア まで      イ れ      ウ と      エ が      オ も

**第五問** 次の文にはいらぬ言葉があります。それを単語でぬき出しなさい。

弟は宿題を終えたたとたんに、すぐに友達の家をやがて遊びに行った。

**問題Ⅱ** 次の文章は、新美南吉「子どものすきな神様」という文章です。この文章を読んで、後の問いに答えなさい。

子どものすきな小さい神さまがありました。いつもは森の中で、歌をうたったり笛をふいたりして、小鳥やけものと遊んでいましたが、ときどき人のすんでいる村へ出てきて、すきな子どもたちと遊ぶのでした。

( 1 ) この神さまは、い子どもすがたをみせたことがないので、子どもたちにはちつともわかりませんでした。雪がどつさりふったつぎの朝、子どもたちはまっしろな野はらで遊んでいました。するとひとりの子どもが、

「雪の上に顔をうつそうよ。」  
といました。

( 2 ) 十三人の子どもたちは、腰をかがめてまるい顔をまっしろな雪におしあてました。そうすると、子どもたちのまるい顔は、一列にらんで雪の上にくつたのでした。

「一、二、三、四、……」

とひとりの子どもが顔のあとをかぞえてみました。

どうしたことでしょう。十四ありました。子どもは十三人しかいないのに、顔のあとが十四あるわけがありません。そして神さまも、子どもたちといっしょに顔を雪の上にくつたのにちがいありません。

いたずらさきの子どもたちは、顔をみあわせながら、目と目で、神さまをつかまえようよ、とそうだんしました。

「兵隊ごっこしよう。」

「しようよ、しようよ。」

そうして、いちばんつよい子が大将になり、あとの十二人が兵隊になって、一列にならびました。

「きをつけッ。ばんごうッ。」

と大将がごうれいをかけました。

「一ツ。」「二ツ。」「三ツ。」「四ツ。」「五ツ。」「六ツ。」「七ツ。」「八ツ。」「九ツ。」「十ツ。」「十一ツ。」「十二ツ。」

と十二人の兵隊へいたいがばんごうをいってしまいました。そのとき、だれのすがたもみえないのに、十二番目の子どものつぎで、「十三ツ。」

といったものがありました。(3)をころがすようなよい声でした。

その声をきくと子どもたちは、

「それ、そこだツ。神さまをつかまえろツ。」

とって、(4)番目の子どものよこをとりまきました。

神さまはめんくらいました。いたずらな子どものことだから、つかまったらどんなめにあうかしれません。

ひとりのせいたかのつぽの子どものまたの下をくぐって、神さまは森へにげかえりました。けれど、あまりあわてたので靴くつをかたほう落としてきてしまいました。

子どもたちは雪の上から、まだあたたかい小さな赤い靴くつをひろいました。

「神さまはこんな小さな靴くつをはいてたんだね。」

とってみんなで笑いました。

そのことがあってから、神さまはもうめつたに森から出てこなくなりました。それでもやはり子どもがすきなものだから、子どもたちが森へ遊びにゆくと、森のおくから、

「おおい、おおい。」

とよびかけたりします。

**第一問** 子どもたちは全部で何人いましたか。

**第二問** 次の一文が本文からぬけてしまいました。元の場所にもどして、その直後の五文字をぬき出しなさい。

きつと、いつものみえない神さまが、子どもたちのそばにきているのです。

**第三問** ( 1 ) ( 2 ) に入る言葉を、次のア～オの中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア そこで      イ つまり      ウ さて      エ たとえば      オ けれど

**第四問** ( 3 ) に当てはまる言葉を、次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

ア 雪だるま      イ 円      ウ ボール      エ りんご      オ 玉

**第五問** ( 4 ) に、数字を入れなさい。

**第六問** 「そのとき」とありますが、どのときですか。文中の言葉を使って、十五字以内で答えなさい。

**第七問** 神さまが最後に子どもたちに残していったものを六文字でぬき出しなさい。

### 問題Ⅲ 次の問いに答えなさい。

第一問 次の文章の要点として、もつとも適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

新しく来た女の先生がぼくに「こんにちは」と大きな声であいさつした。

- ア 新しく来た先生がこんにちはとあいさつをした。
- イ ぼくに「こんにちは」とあいさつをした。
- ウ 先生がぼくにあいさつをした。
- エ 女の先生が大きな声であいさつをした。

第二問 次の文章をよりよい文章にするためには、どの言葉をけずるのがよいか、それぞれ一つずつぬき出しなさい。

- (1) 私の 誕生日たんじょうびに みんなが 集まって、 ケーキで 楽しい お祝いを してくれた。
- (2) おながが すいていないのに、 甘いあま お菓子かしには すると 目がいつて しまう。



**第三問** 次の言葉を使って、それぞれ一つの文章を作りなさい。

- (1) 天気 は 気持ちの 今日 だ 良い
- (2) は そうだ 国語 君 できなさ が

**第四問** 次の言葉を使って、それぞれ一つの文章を作るとき、使わない言葉が二つずつあります。それを答えなさい。

- (1) ひまわりです 明日は 友達が あれは クラスの 笑っている 育てている
- (2) ようだ ふさわしい 役に 君 人だこそ これ この

**第五問** 次の文章の——線部の意味が変わらないように、( )の中の言葉を使って文章を書きかえなさい。

- (1) かれは引っこしてしまつたので、連らくを取る方法がない。( ) よう ( )
- (2) かれの生活は以前よりずっと楽になつた。( ) まして ( )

## 問題Ⅳ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

人間は一人では生きていけません。子どもは親に育てられて大きくなるのだし、その親だって、一人で生きてきたわけではありません。それだけではありません。たとえば、毎日食べるご飯。スーパーに行くと、肉や魚、野菜などが並んでいますが、こうした材料を自分一人で作ることはできません。牧畜業や漁業、農家の人たちの働きによって、そうした食料が私たちの口に入るのだし、それらを運ぶ人、売る人と、多くの人たちが力を合わせたおかげで、私たちは初めてご飯を食べることができません。それにご飯を食べるときの茶碗、お皿、箸も誰かが作ったものなのです。ご飯を食べた後の生ゴミだって、誰かが処理をしてくれています。それなのに、私たちはまるで自分一人の力で立派に生きていると思ひ込みがちです。今、こうしてあるのは誰かのおかげなのです。お金さえ払えば、それで十分だと勘違いしている人もいます。人間は一人で生きていけない限り、やはり、みんなと助け合って生きていかなければなりません。他人を尊重し、感謝の気持ちを持ちながら、社会のルールを守って生きていかなければならないのです。

※尊重（そんちよう）：大事なものとして大切に扱うこと

第一問 文章を三つの段落に分け、第二段落・第三段落の始めの五文字（句読点をふくむ）をぬき出しなさい。

第二問 問題文の中にいらぬ一文があります。その一文の始めと終わりの五文字（句読点をふくむ）をぬき出しなさい。

**第三問** 問題文の中に、言葉の間違<sup>まちが</sup>いで意味がわからないところがあります。五文字でぬき出し、正しい形に直しなさい。

**第四問** 筆者がもつとも言いたいことをまとめたものを、次のア～エから一つ選<sup>えら</sup>び、記号で答えなさい。

ア 人は一人では生きていけないので、助け合<sup>あ</sup>って生きていくべきだ。

イ ご飯を食<sup>く</sup>べるのでさえ、多くの人たちの働きのおかげである。

ウ 私たちは自分一人の力で生きていると思<sup>おも</sup>いがちである。

エ 社会のルールを守<sup>まも</sup>って正しく生きていくことが大切だ。

## 問題V

次の太郎さんと花子さんとの会話を読んで、後の間に答えなさい。

- ① 太郎 ぼくの友達にアメリカ人がいるのだけど、かれは日本人は何を考えているのか分からないって言ってたよ。
- ② 花子 どうして？
- ③ 太郎 アメリカ人はイエスカノーか、つまり、賛成か反対かを最初に言うんだって。
- ④ 花子 でも、どちらか判断がつかなかったり、真ん中の意見だったりすることもあつたり。
- ⑤ 太郎 だから、はっきりしないとされるんだよ。第一、イエスカノーか、最後まで聞かないと分からない。賛成かと思つて聞いていると、最後に「くない」を付け加えられたら、反対の意見になつてしまふ。
- ⑥ 花子 でも、最後まで聞かなくても、おたがいに相手が何を言いたいか分かつてしまふ。それつて、逆にすごいことだと思つてわ。

第一問 太郎さんと花子さんは、はっきりしない日本人の話し方に対して、肯定的か否定的か、それぞれ答えなさい。

(肯定…その通りであると、みとめること。 否定…そうではないと打ち消すこと。)

第二問 日本人と比べた、アメリカ人の話し方についての発言はどれか、番号で答えなさい。

**第三問** 日本人の話し方がはっきりしない具体例を述べた発言を、番号で答えなさい。

**第四問** あなたは日本人のはっきりしない話し方を肯定したとします。

その理由を自分で考え、「断定」「表現」「相手の気持ち」という言葉を使って、四十字以内で答えなさい。  
(断定：物事をはっきりさせること。)



